
議題 基準諮問会議からの報告

項目 議事要旨 2 (企業会計基準委員会の活動状況)

(議事要旨 2) 企業会計基準委員会の最近の活動状況について

企業会計基準委員会 (ASBJ) 事務局の宗延専門研究員より、企業会計基準委員会の最近の活動状況についての報告が行われた。

これに対し、基準諮問会議委員より、以下の意見が聞かれた。

日本基準の開発

(リース会計)

- 不動産リースについては各国独自の事情や商慣習があり、特にセール・アンド・リースバックについては、会計処理の定め方によって実務に与える影響は大きいものと考えられることから、利害関係者の意見をよく聞きながら審議を進めていただきたい。

(金融商品 (減損))

- 「比較可能性を損なわない程度で我が国の固有の事情を考慮して開発を行う」とされているが、比較可能性について、どのような状態であれば比較可能性が担保されていると考えるかを明確にしておいた方が良いと考える。
- 適用事例については、欧米の金融機関の分析も有効であるが、我が国の企業の米国証券取引委員会 (SEC) の年次報告における IFRS 基準や米国会計基準の減損の実例なども参考になるのではないかと考える。

(その他の日本基準の開発)

金利指標改革に起因する会計上の問題

- 2023 年 6 月のドル LIBOR の廃止を見据え、今後のマーケットの動向についても注視していただきたい。

金融商品取引法上の「電子記録移転権利」又は資金決済法上の「暗号資産」に該当する ICO トークンの発行・保有等に係る会計上の取扱い

- 資金決済法上の「暗号資産」に該当する ICO トークンの会計上の取扱いについて、現時点では発行事例が少ないので基準開発に進みづらいということは理解するが、一方で実務において、基準がないため取引を行いたくても行えないという意見も聞くところである。したがって、ニーズや状況を正確に把握した上で進めていく必要があると考える。
- 今後のブロックチェーンの技術の進展や、不動産以外の取引への拡がりについても注視

していただきたい。

開示（注記事項）に関する方針の整理（中期運営方針）

- 単体財務諸表における開示について検討を早急に進めていただきたい。現在、金融庁においても制度開示の議論がされており、単体財務諸表についてあるべき姿を議論する必要があると考える。開示の後退になってはいけないが、企業の負担を考えると、情報の充実と合わせて、簡素化も議論する必要があるのではないか。
- 単体財務諸表の簡素化の議論の際に財務諸表利用者のニーズについての議論をしており、参考にされたい。
- 重要性の考え方について、サステナビリティ基準においても重要性の考え方が重要視されており、会計基準において何らかのガイドラインが必要になってくるものと考えている。
- 開示に関する適用後レビューについても、プロジェクトを進めてほしい。

国際対応

（のれんの償却に関する IASB 及び FASB の審議の状況）

- FASB の議論の中で、原則として 10 年のデフォルト期間で定額法により償却することが暫定決定された点について、将来的に日本の実務へどのような影響が生じるかについて危惧している。
- 開示の改善について、財務諸表に含めるべき情報と非財務情報の区分は重要であると考えており、その観点での議論を深めていただきたい。
- IASB と FASB の審議の進捗の差については、特に注視していただきたい。

（基本財務諸表プロジェクト（財務業績の計算書の表示）

- ASBJ のコメント・レターの概要と、IASB の再審議における暫定決定との乖離について強い懸念があり、今後の ASBJ としての対応を検討していただきたい。
- 基本財務諸表における営業損益を残余の区分とする定義の提案は、我が国における損益の概念と相容れないものであることは、強く認識する必要があると考える。

（開示原則）

- IASB の公開草案には強い懸念があり、今後の IASB の審議の状況について引き続き注視していただきたい。

審議事項(2)參考資料2

以 上